

□第 14 回学校建設準備委員会 議事録

日 時：2025（令和 7）年 10 月 7 日 13 時 40 分から 16 時 30 分まで

会 場：町民センター 2 階 第 2 会議室

◆出席者（委員名簿順）

1 大塚委員	2 瀬瀬委員	3 藤井委員	4 玉田委員	5 小林委員（欠席）
6 竹原委員	7 山口委員	8 露 委員	9 朝倉委員	10 古川委員（欠席）
11 伊藤委員	12 瀧本委員	13 倉澤委員	14 新川委員	15 北村委員

◆傍聴者

・岡田夏十さん（小田原市） ・村田美晴さん（小田原市） 計：2 名

◆事務局

・清水教育課長 ・塩田学校建設専任課長兼指導主事 ・上甲学校建設担当課長
・青木課長補佐 ・勝間田主事
・奥村学校建設教育指導員

◆事務局等（教育課以外）

・東畑建築事務所（高木・久保・樽木・内海・相馬・岡本）
・(株)教育環境研究所（長澤所長）

◆次第

（1）開会（事務局：塩田学校建設専任課長兼指導主事）

○皆様、こんにちは。お時間になりましたので、これより第 14 回真鶴町学校建設準備委員会を開催させていただきます。本日のくじは『パズルのピース』です。パズルは、今から 250 年以上前にイギリスの地図職人が子どもたちの学習のためにヨーロッパの地図を貼った板をピースごとに切り取ったのが始まりで、もともとの意味は「懸命に考える」だそうです。新しい学校づくりは、大きなパズルを組み立てていく作業に似ていると思います。一つ一つのピースは小さくても、欠けてしまえば全体は完成しません。形や色が一つ一つ違うからこそ、互いにかみ合って初めて大きな絵が見えてきます。子どもたちや地域の未来を描いた絵を完成させるために、知恵と力を寄せ合いながら歩みを進めてまいりたいと思います。それでは本日もどうぞよろしくお願いいたします。それでは会議前に資料の確認をお願いいたします。会議次第、裏面に名簿。資料 1 から資料 4-4 までとなります。過不足等ないでしょうか。それでは、まず初めに大塚委員長より一言ご挨拶をお願いいたします。

○大塚委員長あいさつ：お忙しい中、お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。徐々に議論すべきポイントが回を重ねるごとに、いろいろと具体的になってきていますが、ぜひ今回も皆様の協力をもって有意義な会としたいと思いますので、よろしくお願いいたします。ご案内を見ますと、さり気なく終わりの時間が 4 時 30 分までということで、前回よりも 30 分時間のゆとりを見ているのですね。これ以上の延長がないように進行していきたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。それから本日のミッションですが、お手元の真鶴町学校建設準備委

員会の会議次第を見ますと、まず報告 a は報告を受けて中身を確認すると。それから、協議 b 「配置案について」は、前回、L 字にするかどうか決めようとトライしたのですが、残念ながら決まりきらなかったので、今回はぜひこの準備委員会の意見を取りまとめたいと思いますのでよろしくをお願いします。それから、c のゾーニング。「どんな場所にどのぐらい、どういう機能が行くのだろうか」については、今日何かを決めようというよりは、皆様からの率直な意見を頂戴して、今後の検討材料をしっかりと得ることにしたいということでございます。それから d の幼稚園については、今日、委員会としての結論をぜひ出したいと思っております。それから最後に、時間が許す範囲の中で教育を語り合う会及び教職員のワークショップについての資料説明をさせていただくと。そんな段階で進めたいと思いますので、ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。では始めます。事務局をお願いします。

○事務局（上甲学校建設担当課長）：はい。ありがとうございます。それでは、これより真鶴町学校建設準備委員会設置規則第 6 条の規定により、委員長が議長となりますので、よろしくお願いいたします。

○大塚委員長：はい。かしこまりました。それでは、ここから委員会を開始したいと思います。議事に入ります前に、本日、傍聴は 2 名いらっしゃいました。傍聴の方を許可しておりますので皆様ご確認ください。それでは早速議事に入らせていただきます。まず（2）a 「第 13 回学校建設準備委員会」の概要につきまして、事務局より報告をお願いします。

○事務局（上甲学校建設担当課長）：着座にて失礼します。資料 1 「第 13 回学校建設準備委員会」の概要につきまして報告をいたします。議事録につきましては、既にホームページに掲載済みですので、詳細報告は省略をさせていただきます。今回の委員の皆様にお配りしました議事録は、会議前の議事録も二重線囲いで添付してございます。ホームページに掲載の議事録につきましては、二重線囲いを除いた学校建設準備委員会の議事録を公表しておりますことを、ご承知おき願います。また、冒頭で委員長からも説明がありましており、前回の会議で配置案等について熟議が不十分であったため、決することができませんでした。そのため、委員の皆様にはアンケート方式によりご回答をいただきましたことを、この場をお借りいたしまして感謝申し上げます。報告は以上となります。

○大塚委員長：はい。ただいま事務局より報告がありましたが、ご質問ご確認等ございますか。委員の皆様いかがでしょうか。大丈夫ですか。では進めていきましょう。続きまして、協議事項です。（3）協議事項 b 「配置案について」、皆さんで検討していきたいと思います。事務局より案内をお願いします。

○事務局（上甲学校建設担当課長）：はい。それでは前回の会議終了後から本日までに配置案について、学校建設準備委員会の皆様からの意見、教育を語り合う会、小中学校教職員とのワークショップで出されました意見等につきましては、資料 2-1 から資料 2-6 まで事前に配布させていただきます。

ました。これらの結果を見てみますと、概ねL型ハイブリッド案を支持する意見が多かったように思います。今一度、設計チームより補足説明をしていただきまして、各グループで再度熟議をお願いしたいと思います。それでは東畑建築事務所さんから、これまでの経過や各委員からいただいた意見集約の結果、各配置案の主なメリット、デメリット等の補足説明をお願いいたします。

○東畑建築事務所（内海）：はい。ワークショップ担当の内海です。よろしくお願いします。前回の建設準備委員会から今日までの間、どんなことをやってきたか。少し概要をお話した後、資料の詳細をお伝えさせてください。それでは前のスライドでご説明いたします。対話型プログラムということで「教育を語り合う会 2025」ですが、真鶴町のいろいろな方にポスター設置のご協力をいただいております。Facebook、Instagram、SNS を見ていると、例えば、観光客の人がこのポスターを見ていらっしゃるケースもあるなど、町にいろいろ貼ってもらえるのはとても嬉しいことです。ありがとうございます。第1回目、8月30日のワークショップです。初回ということで、設計チームで設計案を紹介させてもらいました。86名の方が参加してくださいました。テーブル数でいくと11テーブルと、かなり多くの方が参加してくださって話をしています。設計チームからご挨拶をした後、『半島まるごと学校』というコンセプトの話など、例えば、こちら側からワークショップをする心構えとして、設計者はあくまでもデザインのプロではあるのですが、真鶴町に住んでいる皆さんは地域生活のプロですので、地域生活の上でどんな学校がいいか。どんな町にしていきたいか。そういったお話をいただければ、設計者がそれを反映していくことをお伝えし、行政職員はそこを支える形で執務のプロで関わらせてもらっていることをお話させていただきました。ですので、より生活に近い意見をいただけるようにワークを計画しています。テーブルでも初回ですので自己紹介などをし、あと、今日皆さんの手元にもある配置図の話や図面を持ちながら「良いな。」や「気になる。」という点をお話させてもらいました。テーマとすると2つです。3つの配置案についてと、あとは部屋の位置ですね。今日、この後もやらせていただくワークに近いのですが、どんな関係で諸室があるといいかといったこととお話ししたり、模型なども紹介させていただきました。第1回です。子どもたちも参加してくれています。話し合った内容を発表するところまでいきました。ただ一方的に、こちら側が与えたプログラムに答えていただくだけではなくて、「もっとこんな話をすればいいんじゃないか。」といった『その時言えなかった言葉の意見箱』を設置して、その声も拾っています。全部で27個挙げていただきました。それも反映しながら進めていきたいと思っています。続いて、小中学校教職員のワークショップがどんな雰囲気か、お伝えします。9月9日に中学校の先生たち9名の皆さんとお話をさせていただきました。3テーブルに分かれてお話をしています。24日には小学校の先生たちとお話をさせていただき、15名の参加者でした。雰囲気は、こんな感じです。（動画を見せながら）ワイワイしながら柔らかい雰囲気を作りながら、たっぷり1時間30分取って話をし、いろいろな意見をいただいています。それも添付資料でお手元にお渡ししていますので、このあと簡単にご説明いたします。第1回のワークショップで「もっと子どもの参加があるといい。」といった声があったので、小中学校にキラキラしたシールを貼ったチラシを改めて配らせていただきました。第2回です。第2回は『学校×せとみち』で、同じく80名の方が参加くださり、「せとみち」の印象を話し合っています。この時にフィールドワークで「せとみちを実際に見てもらう」ということで、一部の方と一緒に外に行ってコースを回りました。外に行かなかった

方、行けなかった方のために映像も準備して配慮しながら、『「せとみち」のあり方を考える』といったメインテーマで話し合いをしました。そうすることで、学校の中にいろいろな居場所ができるようになることと、真鶴町らしさを反映できればと思っています。続いて、特別教室と地域ルールの可能性をどうやったら本気で考えられるだろうかなと考えて、『図書室について考えよう』というテーマだけではなくて、前後に何か言葉を付けてひらめきが生まれやすいワークに取り組みました。これはバックキャストिंगと言うのですが、自分がめざしたい未来や、やりたいことから活動を出していく手法です。前後にどのようなことばがくるか分からない状態で、くじみみたいな形式にして、思わぬ出会い、思わぬテーマから意見を広げていくワークをさせてもらいました。子どもに発表してもらおうといった雰囲気も作れています。当日の様子は、おおよそこのような雰囲気です（動画を見せながら）。これ以上になると会場的に満員かなと思いますが、かなり楽しく皆さんとお話をさせてもらっています。この全体の流れと雰囲気を踏まえた上で、この後お配りしている資料の一つ一つ細かい所をお話させてください。

○東畑建築事務所（久保）：はい。では私からは、このあと皆さんにご意見をいただく前に、皆さんからいただいた意見や教職員のワークショップの成果、地域のワークショップの成果を踏まえまして、改めてこの3つの配置について、ポイントを少し整理する必要があるなということでスライドを作ってきました。非常にたくさんのご意見をいただいて、それぞれの良いところ、悪いところも分かりましたし、いろいろな配置計画を進める上で何が大事かも整理できたように思いますので、報告をさせていただきます。前回、提示しました『配置計画比較表』があったと思います。こちらの評価軸を基に、皆さんからいただいた意見を整理しました。まずは正門から校舎への動線について、いろいろとご意見をいただきました。意見の中には「ずっとこの校舎に来るまで歩いて来ているのだから、正門から校舎までの距離は、そこまで考えなくていいのではないか。」という意見もありました。ただ、印象的だった意見が先生や委員の皆さんからも出てきました「この正門から入ったすぐの場所に建物があることは、学校の顔づくりにとってとても大事だ。」という意見もいただきました。私どもは、どちらかというと昇降口と正門との距離を意識しながら、図にあるような評価軸を作っていたのですが、「施設の顔づくり」という側面もあるのだなと改めて気付かせていただきました。今回の学校が真鶴町の新しいシンボルになることを考えた時に、そういう視点はすごく大事だなということも考えながら、このAの評価軸という意味では、そういう点も配慮する必要があるのではないかなと思いました。あとは、「正門と昇降口の距離がやはり近いと良い。」という意見は皆さんから出てきましたし、その一方で、学校へ向かう心理的距離が近くなること、校舎が正門から離れていくことで、もし「学校に行きたくない。」という気持ちがあった時に、よりその気持ちが加速されてしまうのではないかというご意見もあって、建物が正門の近くにあることで、そこまで心理的な負担もなく学校の中に入っていけるという意見もあったので、建物がこの正門近くにあることは、そういった側面からも大事なことなのだなということがわかりました。あとは、地域との接点になるべく多く作る意味でも、正門から建物が近いのは大事なのだろうなということが、皆さんから意見を聞いて分かってきたところです。2つ目は校庭の環境です。それぞれ東西軸、南北軸のお話をしました。非常に多くの意見をいただきました。特に印象的だったのが、今回は計画では公式サイズのサッカーコートの大きさが何とか確保できている話をさせてもらいました。小中学

校の体育の先生それぞれが「それが取れることは、どんな競技、どんなイベントをしたとしてもある程度ゆとりを持って使うことができるので、それは評価軸としては良いのではないか。」ということをしていただきました。そういう意味では、それぞれの案で満たしています。あともう1つ。サッカーコートが南北軸であることが大事というお話を前回しましたが、そういったところもやはり大事だよということをも改めて皆さんからの意見で再認識したところでもあります。そういう意味では、東側配置やL字型配置は満たしているのかなと思いました。あとは、ここには書いてないですが、「アプローチをやはり大切にしたい。」というご意見もたくさんありました。北側配置ですと、どうしても正門から校舎に向かうアプローチが豊かに作れないのは少し課題なのかなと思いました。あと検討事項ですね。これは今、方向性が決まったとしても継続的に議論しないといけないことが、特に校庭の環境でたくさん出てきました。1つ目は、コートは取れているけどトラック周りの余白はやはりある程度確保しないと、行事ごとでなかなか対応できないというお話がありました。これはどの案であっても課題になりますので、そこは継続的に考えていかないといけないなど。あとは広場のあり方ですね。これも義務教育学校ということで1年生から9年生の使う校舎のことを考えますと、やはり広場は1つではなくて複数ある。その広場の作り方が、どの案についてもポイントになる。あと畑、花壇ですね。こちらも教育上とても大切な場所になってきますので、なるべく子どもたちが日常的な動線に使う場所の近くが良いことと、なるべく日当たりが良い所を選んで配置してもらうことが大事だよという話。あとは砂場の位置です。これは体育の先生からいただいた言葉で、砂場の位置次第で、どれだけサッカーコートや野球の正規の大きさが取れていたとしても、それがグラウンドの正規で使える形を決めてしまうので、砂場が良い場所に行き過ぎてしまうと、競技をする上で支障が出てくるので、砂場の位置もとても大事だということで、競技をする砂場と園児たちが遊ぶ砂場を別で設けるのか。一緒に作るのか。そういったところも一緒に考えながら議論してほしいという話がありました。他にもたくさん課題があり、緊急車両の進入経路ですね。これを見ていただくと、正門からこういったルートで保健室やグラウンドに至るかですが、現状、東側配置だとかなり建物が正門に接近していますので少し厳しいなというところですね。北側、L字であれば緊急車両はグラウンドの中、あとは校舎の内側にも入って来られるような感じを取れていますので、この辺りも検討事項として考えるべきところかなと思います。あとサッカーゴールの後ろの防球措置も考えないといけないよという話で、例えば南北軸で取った時にサッカーコートの後ろにも校舎が来てしまうので、そういった時の防球対策。あとは道路側ですね。道路側の防球対策はいずれの案においても大事なことで、そこは配慮してほしい所だという話です。あとロータリーの話です。提案としてはこの校舎の裏側、体育館の横側にしていたのですが、やはり緊急車両が入ってきた時に、この正門の近くでロータリーがあることはとても大事な肝ですので、そういった所もきちんと取れるような計画にしてもらわないと困るねという話がありましたので、こちらも継続的に検討する必要があると思いました。続いて、校舎内の動線です。こちらについては、どちらかというと次のワークで議論したいところでして、教室の役割によって動線の長短、善し悪しが異なる。少し分かりにくいかもしれませんが、例えば話で言いますと、保健室を考えた時ですね。子どもたちが怪我した時に救急対応で体のケアをする保健室の役割と、子どもたちの心のケアの役割の保健室を考えた時、心のケアの側面からいくと、教室と保健室の位置は離れていた方がいいのだろう。ただ、体のケアの話をした時には、子どもたちのエリアに近い方がいい。同じ部屋でも、あ

る部屋にとって近い遠いというものが違うということが、やはりそれぞれの部屋で存在してくる。つまり、それは一対一の対応だけではなくて、建物全体の優先順位を考える必要があるなと思いましたので、この次のワークの時にそういう議論をぜひさせていただきたいと思います。あと、動線の長さがメリットになる場合もあると思います。必ずしも動線が短いことが良いことだけではないと先生たちと話をしている時に気付きました。ある目的地に子どもたちが移動する時に色々な興味・関心事に出会うことがあります。例えば、子どもたちが他の教室に移動する時に、自分のクラス以外のクラスでやっている活動や発表などを見ることで刺激を受けたり、今回の計画でいうと学校図書館での活動を見たり本に出会ったりなども考えられるので、コンパクトであることも大事だけど、どういう方法で子どもたちの出会いや交流を日常生活で起こせるかも大事だということが分かりました。続いて、日照環境への配慮です。これは実際に中学校に行き行って気付いたことなのですが、このちょうどくぼんだ所ですね。くぼんだ所は体育館の隣の部分です。先生方もよくおっしゃられていたのは、やはり西日です。西向きからの光は眩しいだけではなくて、とても暑い。それは自分で体感して、改めてやはり暑いと思ったので、長時間使用する普通教室は西向きよりも、やはり南向きに向いていることが大事なのだろうなとも思ったのですが、特に委員の皆さんから出てきた意見で「南側に向けた時に日差しが南側の教室に入ってきてしまったら、暑くなってしまうのではないか。」という話があったのです。なので、日射遮蔽の話も一緒に考えないと駄目だなということが分かってきました。例えば、これは断面図でイメージ図ですが、南向きの教室にした時に建物の底の出を長くすることで、夏場の日差しをカットできるけど冬場の柔らかい光はなるべく校舎の中に入れて採暖する。日射遮蔽することと採暖することは両方満たさないといけないので「それがやりやすいのはどこか」と考えると、やはり南向きの教室で、西日のカットと朝日のカットは建築を作る上で非常に難しいのです。イメージしていただいたら分かりますが、朝日をカットするのが難しいのです。どういった物でカットするかというと、よくあるのが縦向きのルーバーです。これは視線制御でもありますが、こういう縦向きのルーバーを付けることで西日をカットすることはできるので、例えば東であってもL字であっても西向きに教室がある場合は、常時使う普通教室ではない教室であることを前提に日射を遮蔽する工夫が必要なのだろうなということが分かりました。続いて、卓越風の利用。この観点につきましては、さすがに専門的な知識が必要なところで皆さんからのご意見はあまり無かったです。例えば、L字型であれば卓越風が中間期、夏期。特に6月から9月までの間ですね。今、とにかく夏が暑い。9月末ぐらいまで夏なのではないかというぐらい暑いので、この卓越風を上手く校舎の中に取り込むことはとても大事だなと考えた時に、このL字の形や東側に配置するのはとてもメリットのあることではないかと思いました。こんな感じですね。続いて、近隣への配慮です。こちらは私どもが当初検討している時は、北側の近隣住宅への配慮がとても大事だなと考えながら設定していたのですが、「いや。西側も大事だし、東側も大事だよ。」という話が先生たちと話して改めて分かったところです。北側、西側の住宅への砂埃対策はいずれの案も、例えば北側であれば建物、L字型であれば建物、東側であれば防砂の処置などをすれば対応できるかなと思いますし、北側住宅への圧迫感という意味では、それぞれ2階建てであれば圧迫感を軽減できるのかなと思います。あとは北側の住宅への音漏れ配慮。既存の中学校の音楽室がこちらにあるので、騒音が課題になっているというお話でしたので、どの案においても東側に音楽室を配置することで避けることはできるのです。ただ、先生方の中には「この近隣の東側の

方への影響も考えないといけないのではないか。」という話が出てきました。だから、建物を東に寄せるだけではなく、さらに、防音対策も部屋単位でしないといけないのではないかということ、いろいろとご意見から分かりました。地域開放のしやすさについては非常にたくさんのご意見をいただきました。5つ挙げています。必ずこの5つを満たさないといけないところなのかなということ、これを改めて認識しました。セキュリティ区画をしっかりと設けることで、段階的に地域開放に対応することができる。地域開放する特別教室は皆さんがアクセスしやすい位置に来ているか。あとはクラスルームですね。教室の独立性がしっかり確保できているか。セキュリティの話です。あとは地域図書館。今回、学校図書館をどういうふうにするかが課題になっていますが、それとの一体感があるか。あとは子どもたちと地域の皆さんと一緒にいることを生かして、活動が日常的に垣間見える構成になっているのかということが地域開放のしやすさにおいて非常に大事なポイントなのかなと少し思いました。仮に、北、東、Lで平面計画をスタディした時に、どれに開放のしやすさがあるのかと考えると、北、東、Lでそれぞれ特徴がありますが、この北であった場合には、真ん中の緑色が特別教室エリアで、この黄色が地域エリアになります。段階的にセキュリティ区画はできるけど、2を閉じてしまうと1の地域エリアと普通教室エリアが少し離れてしまうことや、例えば東側であれば、2エリア、1エリアというもので区画することができるのですが、この特別教室などに使える所が正門から遠くなってしまうよねという話。L字型であれば、もう常々説明いたしましたが、2つエリアが分かれていますけど、この外のせとみち沿いにあることで明確に子どもたちのエリアとしっかり分離することができる。それぞれの特徴を改めて確認することができました。学校図書館の豊かさについては、学校図書館が今回計画上のコアになると考えた時に、他の教室としっかり融合できるような関係なのか。あとは司書ですね。学校図書館の司書の位置がやはりポイントになるだろうということで、司書コーナーがどこにあるのか。あとは落ち着ける空間などで、図書館に一般的に求められているような機能がきちんと確保することができるのか。ただ、今、落ち着ける場所だけではなくて、子どもたちが気軽にアクセスできる場所としての図書館の役割もあるので、両方兼ねることができるのかという話。あとは図書館自体が通路みたいにならずに、きちんと溜まりのあるような空間になっているのか。窓があって開放的な空間が良いという意見もたくさんありました。「今の図書館が割と部屋としてしっかり確保されていて閉じられた場所にあるので、それがオープンになっていると良いな。」や「窓があってもやはり日焼け対策が必要だよな。」という話など、いろいろいただきました。それぞれの案での学校図書館の位置ですが、北と東は中廊下の空間で教室に囲まれたような空間になっていますので、この辺りをL字にすることで開放感がありながら学校の中央に設けることで少し差があるのかなというものです。普通教室の学習環境については、落ち着いた学習を確保したいと、非常にたくさんの意見いただきました。なので、やはり独立性があるのかなと考えますと、学校図書館はそれぞれの他のエリアとしっかり離れた位置に設けることは、それぞれの案で考えないといけないことですし、メリット、デメリットがはっきりしたのかなと思います。造成工事の要否についてはあまり意見が出なかったのですが、実際にいろいろシミュレーションしていますと、それぞれ建物を作る時に掘削する土や盛るために必要な土、校舎を建てるという意味では、それぞれ掘削土、盛土、切土。それぞれバランスを考えながら設計することができるので、それぞれの案にそこまでの差はないのかなというのが私たちの思いです。すみません。長々と話してきましたが、私どもとしては一長一短ではありますが、真鶴町なら

ではの学校としてより良い計画にできそうなL字型の配置でぜひ進めさせていただきたいなと思っておりますが、今一度改めて皆さんとワークをしてみたいなと思いますので、少しお時間をいただければと思います。よろしくお願いします。

○大塚委員長：はい。ありがとうございます。それでは委員の皆様から事務局あるいは設計会社にご質問やご確認ありますか。資料がなかなか盛りだくさんなので大変ですけど、ご遠慮なく。今、聞いておいた方が皆で検討しやすいよというポイントがあったら聞いてください。大丈夫ですか。はい。お願いします。

○瀧本委員：はい。裏の一番でよく分からない。「切土」や「盛土」や「掘削土」などですが、この違いがどういう違いがあるのかと、これから想定外の災害なども想像しなくてはいけないのかなと思った時に、これは弱くなってしまうみたいなものがもしあるのだったら、そこは避けた方がいいのかなと思って、少し質問させてください。

○東畑建築事務所（久保）：災害対策みたいなことですか。そういう意味で言うと、いずれの案にしても、今この北側の道路とグラウンドは1 mぐらいレベル差がありますが、そういったことを考えるとやはり高い所に建物を作るべきだなと思うので、北側の方の床のレベル設定にさせていただいて、東だったとしてもL字型であったとしても教室の床のレベルは地盤面からは少し上げた方がいいかなと。ただ、そうなった場合に、このグラウンド側とレベル差が出てくるので、上手くスロープなどで段差解消ができるように配慮も必要かと思います。床を2段にしまうと、やはりバリアフリー上、室内で問題が起きてしまうので、なるべくこの高いレベルで床を設定したいなと思っております。「切土」と「盛土」は実際に自分たちが計画する上で区別しただけであまり変わらない。「切土」と「掘削土」ですね。これは実際に建物を掘るという意味ですから、あまり違いがないのです。この建物を建てる時には、これは「切土」。ここが建物の範囲なので、この建物の基礎を作る時に掘削しているので「掘削土」と呼んでいるだけで、建物以外の所で掘る時は「切土」と呼んでいるだけです。これは差がないと思います。個人的には、この造成工事についてはあまり差がないのかなと思っています。

○瀧本委員：ありがとうございます。

○大塚委員長：はい。他はいかがですか。遠慮なくどうぞ。

○玉田委員：すみません。何と言ったらいいか分からないので、前で指していいですか。私は素人で全然分からなくて、質問して申し訳ないのですが。真鶴だと、こちらの方が高くなっていて、こちらが低くなっているではないですか。坂があって下がっていく。先ほど瀧本先生もおっしゃったような、もう本当に想定できない大雨が降った時に、ここからすごい大量の雨が流れ込んでくるのを私は何となく想像するのです。川が無いので道沿いにどうしても雨が流れていくことを想定した時に、その大雨がこの下の方に溜まってくるという。それで1階の教室などが被害を受けるなど、そ

ういうことはあるのかをお聞きしたくて。

○東畑建築事務所（久保）：そういう危険性をなるべく無くしたいなとは思っています。外の「せとみち」という提案をさせてもらいましたが、なるべく水が浸透できるように緑を学校の周りに配置して、そこから浸透させることと、改めて排水設備を見直して、現状だと、どうしてもこの北側の排水路が溢れてしまっているみたいなので、それをしっかりと然るべき所に流す排水計画を改めて見直す必要があると思います。そういった所の対策はしっかりと、どの案になってもする必要があるのであります。

○玉田委員：はい。ありがとうございます。

○大塚委員長：その他いかがですか。大丈夫ですか。

○朝倉委員：ここの図でいうと、ここら辺の高台なのだけど、こちらが土砂災害指定区域になっている。ご存知ですか。

○東畑建築事務所（久保）：はい。承知しております。

○朝倉委員：よく自治会員から要望が出るのは、この県道の排水が何というかな。このぐらいの金属でこうなっているのだけど、埋まってしまっているのですよ。草が生えてしまって埋まっていると。要するに、こちらからこちらに傾斜させるのはいいけど、ここが排水できない。こちらに流れ込むと思うのだけど、そこら辺はここだけの敷地ではなくて、県道の排水状況もよく見てもらいたいのです。すみません。別にどこが賛成ではないのだけど、そういう。ここだけの問題ではなくて、ここも問題がありますという。

○東畑建築事務所（久保）：主要な排水の道があって、そこに対して接続したとしても、そこが詰まっていたら意味がないだろうということでしょうか。

○朝倉委員：そういうことです。おっしゃるとおり。

○東畑建築事務所（久保）：はい。そういったことも。これは県でしょうか。

○朝倉委員：県道です。

○東畑建築事務所（久保）：管理する主体とも協議をしながら進めていきたいと思っています。貴重なご意見をありがとうございます。

○朝倉委員：よろしくお願いします。

○大塚委員長：はい。その他いかがですか。よろしいですか。それでは今、情報提供していただいたことも基にしながら、これからグループごとに「L字がいいのか。東がいいのか。北がいいのか」について、いろいろな観点を頂戴しました。その観点から検討をしていただいて、最終的には「このグループとしてはどこがいいかな。どのプランがいいかな。」と発表ができるようにしていただけると大変助かります。事務局、時間配分からいうと何分ぐらい取れますか。

○事務局（上甲学校建設担当課長）：5分から10分ぐらいでお願いします。

○大塚委員長：5分は無理がありますね。10分にしましょうか。あの時計で32分までに結論が出るように話してみてください。難しいようであればまた考えましょう。では、各グループでよろしくお願いします。

○東畑建築事務所（樽木）：各グループに設計者が入るようにしますので、質問があったらお願いします。

○大塚委員長：では、よろしくお願いします。

【グループワーク】

○大塚委員長：はい。縁もたけなわではございますが、予定をしておりました32分を回りました。どうですか。各グループから配置案、「東側案、北側案、L字案のどれがいいのか」を発表していただきたいです。話していますね。熱が入って。次のテーマのゾーニング辺りまでもう一生懸命話してしまっていますね。今、各グループで東側、北側、L字どれがいいか発表できる状態ですか。大丈夫ですか。では大丈夫なようですので、各グループから意見を発表していただきましょう。お願いします。

○東畑建築事務所（樽木）：はい。このグループは最初もう結構序盤からL字一択ですという話がありました。でも、L字になったとしても例えば、砂場の位置など、建物ではない余白の使い方について、きちんと議論した方がいいという意見と、あとは、建物以前にもっと教育など中身のことも議論したい。子ども同士だからと、大人と子ども同士の関係性をどうやって作っていくかという、建物以外のことも話していきたいので、まずは、建物はL字から進めたいというお話をいただきました。ありがとうございます。

○大塚委員長：ありがとうございます。次のグループ、お願いします。

○東畑建築事務所（岡本）：はい。私が発表いたします。このグループでは、まず教室の自由度が高くなりそうな校舎の配置として、北と東がいいのではないかという話があったのと、一方で、L字は

少し教室の自由度が低くなるのではないかという話が出ています。一方で、学校の顔となるのはすごく大事にした方がいいということで、東とL字がやはり一步抜き出ているのではないかという意見があったのと、あとはグラウンドについてはサッカーを今基準にしているけど、200mトラックの方が大事だよねという意見が出ていて、今「これでいこう。」という話にはまとまっていなくて、三者三様で意見があるのではないかという話になっています。以上です。

○大塚委員長：はい。では次のグループは。

○倉澤委員：こちらではL字型配置を選びました。北側配置と東側配置のそれぞれの良い所、それから課題みたいなものを上手く受け取っているのがL字型配置ということで、やはりこの形が良いのではないかなと。そして、中の配置をどうしたらいいのかなど、またはセキュリティ。不審者等の対策、そういったところはどうかかなということ出てきました。以上です。

○東畑建築事務所（相馬）：この班では、すみません。どれに決定というところまで議論はいかなかったです。東とLについて、この正門から入った時の学校も顔づくりができること。また、不審者が入りにくい状況ができる点においては、アドバンテージがあるのではないかなという話をしました。また、全体の配置に関して、グラウンドの作り方はもう少し熟議が必要かなと考えていて、本当にサッカーの公式の広さが必要だろうかという話やトラックの大きさも、この大きさは本当に必要なのか。近隣の公園を活用したりなどもできる中で、学校として求められる運動場の広さはどれぐらいなのかは、しっかり決めていきたいというよりは議論をしていきたい部分だなという話をしました。

○大塚委員長：はい。ありがとうございます。そうすると、4チームの中の2チームが「L字で進めていこうではないか。」という意見で、残りの情けない2チームが「結論まで、なかなかいきませんでした。」という結果でした。それでは結論に至らなかった班もあるものですから、参考までに委員の皆様挙手をお願いしてもいいですか。北と東とL字。さあ準備はよろしいですか。個人の挙手で結構です。ここまで観点を説明していただいて考えた中で。手を挙げられない方は挙げなくて結構です。別に多数決を採るわけではないです。参考までに確認をしたいということです。よろしいですか。まず北側配置がいいのではないかという方はいらっしゃいますか。

【挙手確認】

○大塚委員長：0人。手が挙げづらいので、次は「どうしても今の時点では決めきれない」という方は手を挙げてください。

【挙手確認】

○大塚委員長：お1人。どうしても決めきれない方は玉田さんが迷っていらっしゃると。それから元

に戻りまして、東側の配置がなかなか良いのではないかと。これで進めようという方いらっしゃいますか。

【挙手確認】

○大塚委員長：0人。最後に、L字型で進めてみようかと決まっていられる方。

【挙手確認】

○大塚委員長：はい。12人。ありがとうございました。それでは、これを例えば次回まで持ち越して「また議論しましょう。」というわけにいかないものですから、基本の配置についてはL字型で進めていきたいと思いますが、玉田さんよろしゅうございますか。ただ、グラウンドの形など、いろいろな意見が出て、また何かありましたら、大丈夫ですか。

○学校建設アドバイザー（長澤氏）：では、1つ。今日、前段で設計者から、これまでの協議会の議論との関連を踏まえて、それから、先生方の意見を含め、施設の比較検討する項目を整理して丁寧に説明していただいたので、何を大事にしないといけないかを共有しながら、今議論ができたのではないかと思います。L字型が断然多かったのですが、これまで皆さんの意見や専門的な観点で北側よりは、東ないしはL字がいろいろな観点で優位な所があるというご紹介がありました。私は東とL字はあまり大きな違いがなくて、Lが東側になって少しL字になっているわけで、中をどういうふうに教育的な観点、この活動の一体感など、少しそれが出てきたので多分東とL字の間で、これから検討の中でどこかに決まってくるのではないかと思います。「そうやって決まればいいね。」というのが今日皆さんのご意見だったのかなと思います。例えば、L字だとLの西に出っ張っている所が教室と、もう決めてありますが、そこに教室が来ないでもいいわけです。きっと。もっと教室が学校の中心軸にあって、いろいろな場所があるということだとすると、あそこの出っ張っている所に教室というと、教室が一番奥まった所で手前の特別教室や図書館と少し関係がなくなっているから、その辺は多分これからの設計の検討課題です。ですから、東とL字が顔を合わせたような所で中身と合わせて決まってくるのではないかと。私自身も今日の皆さんの判断については、個人的に見れば同意見です。

○大塚委員長：はい。ご参考の意見ありがとうございました。このメンバーの意見としては「L字型を中心に進めていきましょう。」と。ただ、この後のゾーニングの話も含めて、L字の形が具体的にどういう大きさの配置になってくるか等については、設計者の皆様も柔軟に受け止めていただければありがたいです。よろしくお願いします。

○事務局（上甲学校建設担当課長）：委員長よろしいですか。本日、小林委員と古川委員が欠席ですが、事前に意見をいただいております。小林委員、古川委員からも「L字型に賛成。」という意見をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

○大塚委員長：ありがとうございます。それでは何か言い残したことがありますか。大丈夫ですか。L字といっても、ここがこうしたような中で。大丈夫ですね。玉田さん、何かあったら後で教えてください。

○大塚委員長：はい。ありがとうございます。では、よろしければ次に進んでいきたいと思います。次第の協議事項cです。ゾーニングの比較検討についてということで、L字を基本的な形と必要な中で、それぞれ「どこに何を配置するか」については、これまでワークショップの中でたくさんの意見が出たようです。その辺りをご説明していただき、私たちからも「ここだけはぜひ検討を加えてほしい。」ということ挙げていけたらなと思っています。「何かを決めましょう。」という協議はありません。ご承知おきください。それでは、設計チームからご説明をよろしくお願いいたします。

○東畑建築事務所（久保）：はい。今からゾーニングのワークショップにいきます。小中学校の先生たちの中でも「配置の形はL字で、むしろその先の教育の話などをしたい。」という話で、今からの話はかなり盛り上がった部分です。別添で付けている資料の意見も、ほぼ100%このゾーニングの話になっていますので、ここでもぜひ皆さんのご意見を聞かせていただきたいです。ただ、先ほどL字が別に反対というわけではなくて、出ていた意見は「グラウンドの大きさが本当に今より必要なのかということが気になる。」というところなので、グラウンドの大きさの件もいずれ検討していくのと、我々の方もそれ+教室の自由度という、この2つがテーマとして挙がっていました。そこが配置計画。これから先の平面の中でも考えていきたいと思います。長澤先生からいただいたように、「教室の位置は本当にここがいいのか。」なども含めて考える時間が今からです。その話し合いの進め方やルールを今からお伝えさせてください。画面は字が小さいかもしれません。この資料がもしあれば、こちらを見ながらいきたいと思います。では、早速説明していきたいと思いますが、少し悩みどころが多いのですね。いろいろと先生方ともお話していると、それぞれの部屋の役割を改めて考え直してみると一対一対応ではやはり難しいそう。今、僕らは「普通教室と職員室の関係をどうしましょうか」「普通教室と保健室の関係をどうしましょうか」という一対一のやり取りでいろいろ聞いてきたのですが、それだけでは当然全体の配置計画が決まらないのは皆さんもお分かりだと思います。その中での優先順位が必要になってくるのだらうなということが分かってきました。先ほども例に挙げた「教室と保健室の関係」の話で、心のケアと体のケアの両方を満たす必要がある。そう考えた時に「どこがいいか。」という話が出てくるわけです。僕らが学校建築でよく作る時に、あまりに部屋の数が多いので、その関係性を整理するための『関係図』をよく作りますが、それを皆さんの今お手元にまとめたものをA-1サイズでも用意させていただいています。1階と2階で、それぞれの諸室の関係をまとめた絵があります。これは私たちが、今いろいろ意見が出てきて悩んでいるところを少し整理したものです。例えば、今、職員室の役割を改めて考えますと、当然事務作業をする所であります。その事務作業の中でも、教材研究をしたり、採点をしたり、備品管理をしたりなど、いろいろな役割がございます。あとは予算の管理や環境整備。これは事務職員のお仕事だと思います。あと相談、助言の場。これは子どもたちというよりも先生同士で相談したり助言したりする場だし、リフレッシュですね。先生たちがその学校生活の中で「どう

リフレッシュできるか」という役割も担う所かなと思います。そういうことを考えると、やはり職員室はしっかりとした部屋として設ける必要があるのかなと思う一方で、7,500㎡ぐらいの大規模な小中学校になってきますので、それを先生の拠点として1つ設けるだけでは、子どもたちの見守りの点では少し手薄になってしまうかなということで「教員コーナー」を提案させていただいています。ここも先生たちと議論したところで、ただ教員コーナーを設けても、そこにやはり教材庫みたいなものがしっかり付いてないと、例えば子どもたちに見られたくない物があつた時に、それをどうしたらいいの。それをわざわざ職員室まで取りに帰るのという。そういうことではなくて、教材庫が隣り合っていることで満たせるのではないかなということで「+教材庫」という書き方をしています。これが少し離れた所にあること、子どもたちの近くにあることで子どもたちともコミュニケーションが取れたり、先生同士が教材研究で話し合ったりなどができる場所がサテライトとしてある。あと教科研究室がある所はいいけど、例えば「国語の先生や社会の先生などの研究室みたいなものは無いの。」という話がやはり出てきたのです。今回、教科センター方式ということで、例えば北側の所などに理科、英語などの研究室がある。つまり、先生の拠点がいくつもあると良いのではないかなという話です。だから、必ずしも職員室で全部何もかも処理しないといけないのではなくて、点線書きで2階の所に「教員コーナー」と書かせてもらっている所もあります。先生たちの業務をもう少し拡張して、いろいろな所で業務ができたりコミュニケーションが取れたり、リフレッシュできたりなどができるの良いのではないかなと。先生たちと話していて少し思った次第です。あと保健室です。これは先生たちの中でも職員室、教室という軸線を考えた時に、間にあつた方がいいのか。それが職員室の裏側にあつて、教室とは少し離れた位置にあつた方がいいのか。これは先生もやはり決めきれないなと。両方必要だし、それをどうするかはやはり悩ましいなという話で、これは委員の皆さんにもご意見いただきたいところです。そんな感じでいろいろな所に話を少し展開していくと、例えば、昇降口も外の「せとみち」沿いに多目的ホールなど、地域開放ができるものを隣接させているのが特徴という話をしました。そこでいろいろな所が外の「せとみち」に近いと矢印で書いているわけですが、昇降口をそちらに面するという考え方もあるけど、それをグラウンド側に面していることで、すぐに子どもたちが休み時間にグラウンドに出ることができる。避難の時にすぐグラウンドに出ることができる。やはり昇降口がグラウンド側にあることのメリットもある。興味深い意見が「いや。昇降口が1つではなくていいのだよ。」と。分散していることで、例えば教室回りですね。「ここが1階にあればいいよ。」という先生もいれば、「1階と2階の両方にあつて、両方からグラウンドに降りられる方がいいよ。」という意見や「分散していることで、ある年度によっては、この学年の子どもたちは西側に固めて、この学年の子たちは東側に固めるなど、その年度に応じて昇降口の使い分けができるなど、そういった考えもあるのではないかな。」というご意見もいただきました。昇降口も選択肢がたくさんあるという話です。あと主要な所でいくと、多目的ホールの位置の話を皆さんにもお聞かせいただきました。これは有事のことを考えると、体育館、給食室、多目的ホールの連携がとても大事で、この三角形です。この関係はすごく大事だよ。ただ、常時のことを考えると、家庭科室、ランチルーム、給食室の関係も大事だよという話もありました。この辺りはバランスがやはり必要になってくるなということがありました。多目的ホールは全天候型の内部広場という考え方。雨が降った時に皆で遊べる場と考え、2階よりも1階にあつた方がいいのではないかなという意見は先生方からもたくさんいただきました。あ

と、地域エリアと学童の話です。「学校の顔」という意見は、委員の皆さんからだけではなくて先生たちからも出てきました。この施設は放課後以降も例えば、夜9時ぐらいまで使う施設と考えたら、その利用率が低くて明かりが灯ってないような場所になった時に、本当に顔になるのかという話があって、先生方は「どれだけ地域の方にこういった部屋を使ってもらえるのか、なかなかイメージができないから、そこは皆さんから意見が聞きたいところだ。」とおっしゃっていました。地域、学童エリアをこちら側、駐車場に近いエリアに持って来て、車動線を考えるとメリットが高い位置にくるのか。学校の顔づくりの一助を担って南側に来て、例えば放課後以降、顔になるようなエリアとして考えるのか。学童については、駐車場からの近さのメリットを唱える意見もあれば、「いや。グラウンドに近いことが大事なんだよ。」という意見もあって、「それだったら学童は南側にあった方がいいよ。」という意見もありました。「or」と書いている所ですね。ここが結構ポイントで、どのエリアをどこに持ってくるかによって、子どもたちの関係性がかなり大きく変わってきますので、こういったところで皆さんの自由な意見をいただければ嬉しいなと思います。それぞれ個別の方のご意見は事前にアンケートでいただいておりますので、今日はむしろそれを出し合って皆さんで議論してもらうことが大事なのかなと思います。説明が長くなりましたが、いろいろとアイデアをいただけたらと思います。では、論点はどこなのかと改めて思いますと、この5つのエリアで論点を明確にしております。グループごとにどういった順番で話していただいてもいいですし、「私たちは、ここのことについて一番議論したい。」ということがあれば、そこを集中的にやっていただいてもいいです。職員室と各エリアの関係。保健室と各エリアの関係。地域エリア、学童エリアの位置関係。多目的ホールの位置関係です。この辺りのご意見をいただければと思いますので、まずはグループワークをお願いしたいと思います。こちらの2-5、2-6と書いた紙が小学校と中学校の先生のご意見をまとめたものです。話をしながら「先生たちはどう思ったのかな。」と気になった際には、こちらをご覧ください。今の5つの論点に近い切り口で書かれています。大きな地図はパズルのような物なので、学童も2つあったりします。もう全然組み替えてもらって、先ほど長澤先生がおっしゃったような東とLの間のような形になるかもしれませんし、そういったところを30分ぐらいの時間でできたらと思います。委員長。どうぞ。

○大塚委員長：はい。ご質問やご確認は大丈夫ですか。今、口頭でお話いただいたことと、この紙やスクリーンに映っている課題で少しずれがあるのが、昇降口は何番に含めて考えればいいのですか。

○東畑建築事務所（久保）：昇降口は、何番と考えずに議論していただければ。

○大塚委員長：いいですか。では、⑥という。昇降口も1つの関係。それから、先ほどグラウンドの大きさについてとおっしゃっていましたが、それはここで話しますか。

○東畑建築事務所（久保）：どちらかというと、部屋同士の関係性について議論をお願いします。

○大塚委員長：つまり、今回はグラウンドの大きさについて触れなくていいと。

○東畑建築事務所（久保）：はい。

○大塚委員長：あと、ランチルームは三角形の中で含めて話せばいいのですか。

○東畑建築事務所（久保）：そうですね。

○大塚委員長：はい。他にありますか。

○東畑建築事務所（久保）：補足しますと、保健室は先生方の総意で「1階がいい。」というお話でした。今決めつけるような形で1階に配置していますが、これは先生たちの一番ご意見が多かった所で、保健室は1階にしました。職員室に関しましては、今1階に配置していますが、現状が2階ということもあって、1階2階については柔軟に考えれそうなご意見はいろいろいただきました。あと、昇降口が「or」という形で東と西にありますが、「東と西で繋げたらいいや。」という話もありました。運用で何とかできるという意味では、東側がメインだけど西から出る必要があったら、靴を持って西から出たらいいのでしょうと、先生方が結構柔軟で「運営でこうやればいいではないか。」というご意見もいただいたので、そこは他の部屋も含めて優先順位なのかなと思いました。

○大塚委員長：はい。ありがとうございます。それぞれ各グループでスタッフが入ってくれていますので、参考のご意見を聞きながら進めてみましょうか。今3時少し前ですので、3時30分までの間で「ここだけは、ぜひ検討するべきだ。」あるいは「こうするべきだ。」というところを付箋か何かにまとめましょうか。何も皆で総意を作る、結論を出す必要はありません。繰り返して恐縮です。では始めましょう。

【グループワーク】

○大塚委員長：それでは、予定の時刻になりました。我が班以外は、皆順調に話し合いが進んでいるようです。5分間休憩をいれて、場内の時計で3時37分から再開します。それまでの間に発表者を決めておいていただければ幸いです。お願いします。

【5分間休憩】

○大塚委員長：それでは、各グループから「こんな点をよく勉強しなくてはいけないよね。」あるいは「ここだけは留意してくださいと、ぜひ設計の方に伝えたい。」ということがあれば、そこを中心に発表してください。どこからいきましようか。ここからでもいいですか。はい。お願いします。

○東畑建築事務所（樽木）：はい。私の班では非常にたくさん、いろいろと皆さん素晴らしい意見が出ました。その中で、今回グループワークで議論してほしいこと③、④に関して、特徴的な意見が出ましたので発表します。大きい考え方として、実は長澤先生に少し入っていて、エディタブ

ルという考え方を持たせるといいよねということで、今こういうゾーニングがされていますが、当然使っていく中で「こうした方がいいよね。」「先生によっては、こういう使い方がしたいよね。」という方もいらっしゃると思うので、「編集可能、交換可能な箱として全体を捉えるといいのではないか。」というお話をいただいて、まさにそれだなということでした。その大きな1つのポイントとして、多目的ホールの部分です。今、多目的ホールと家庭科室、ランチルームをどちらにしますかと書いてあるのですが、これを一緒にして、この多目的ホールの中で家庭科室、ランチルーム機能を持たせることができないかなと考えるのも面白いのではないかなというイメージです。何となくフローリングの部屋で何か作業台があって、水場が置いてあるのだけど、カセットコンロでという。そういう形でできる方法などが無いのかなみたいなお話があって、そういった機能をまとめることを含めて、この編集可能な部屋を増やす発想もあったらいいのではないかなというのが1つ出てきました。あと、もう1個大きなところとして、地域エリアの部分です。やはり先ほど顔の部分というお話ありましたが、見える場所に置いた方がいいということで、この2階の一番奥ですね。線路側の所に置くといいのではないかなというお話でした。地域エリアには必ず学童を併せることによって、ここに地域の方が集まっている。地域の方が活動していると夜でも光がついているので、この学校が町の1つのシンボルになるという話でした。例えば、この下の部分に、できればロータリーのような物を少し設けて、お迎えの時に使う。何かあった時には、こちらに車を入れる。そういうスペースがあると安心してお子さんの引き取り等もできるのではないかなということで、地域エリアはここに持たせた方がいいのではないかなというお話が出ていました。1番と2番に関しては基本的には、ここに書いてある概念のとおりで、保健室に関してはどちらがいいのかなという、今のところは我々の班では結論は出てなかったです。ただ、保健室に来るようなお子さんが、やはり少し避難できるような場所を別に、保健室ではない場所で設けてもいいよねという話が出ていたので、そういった「避難ルーム」など、そういう部屋もあるといいのではないかなというところでした。少し長くなりましたが、以上です。

○大塚委員長：はい。簡潔に、ポイントについて説明いただきありがとうございました。では、次に行きましょう。

○東畑建築事務所（相馬）：はい。よろしくお願いします。私たちの班では、まず「教員コーナーは本当に使うのか。」という話が出ました。ある事例によると、少し物置になってしまいがちな部屋なので、教員コーナーという所をもう少し分解して、「コミュニケーションルーム」として使うことを考えました。そうすると、「+教材庫」とありますが教材庫は別で確保してコミュニケーションルームが教室の周りや、あるいは職員室の前の正門から見える部分に、例えば、学校に行きづらい子がワンクッション置けるような場所として、コミュニケーションルームというものがいろいろな場所にあるのが良いのではないかなという話をしていました。保健室の位置については先ほど出た案と同じで、この場所にあるのがいいのではないかと。できるだけグラウンドにも面していて、教室からもアクセスしやすい場所にあるのがいいのではないかなという話でした。地域エリアは先ほど発表してくださった班と同じで、冬場だと5時ぐらいで暗くなってしまうので、日が暮れても明るくなっている顔として、この部分があるといいのではないかなという話で、このランチルームは前の方に地

域エリアを持ってきました。子どもたちも学童もここにあることによって、電車も見えるし、明るくて気持ち良い空間になるので、ここにあるのが地域エリアとしても学童にとってもいいのではないかという話です。地域エリアと少し付随して、この周りに畑などがあると、そこで菜園して採った物をランチルームで食べるなど、そういった体験ができるようになるのではないかという話をこの班ではしていました。以上です。

○大塚委員長：はい。ありがとうございます。では、次は。

○朝倉委員：最初に、体育館と給食室と多目的ホール。やはりここにも有事の連携と書いてありますが、災害時はこの3つが連携しておりますので、距離は絶対近い方がいい。こういうことです。ですから、体育館もそうですが、多目的ホールも外から入れる。ただし、これは暗証番号などで外から入れるということが必要かなと。それでそのあとに、ただ単に多目的ホールという部屋だと面白くないので、例えば、音楽の関係や音響を考えて、天井の高さなど、それから、ステージ。歌うことができるステージなど、そういうものも考えた方がいいのではないか。こういう意味で3つ連携する。これが大事です。それと、この2階の地域エリアと学童は、皆さんのおっしゃるとおりです。ただし、テラスから運動場が見えるなどを考える。それと、私も昔はずっと陶芸に通っていたのですが、下りホームからこの運動場。今、こういうロータリーで運動場もすぐ見えるのです。言ってみれば丸見えなので、これは皆さんがおっしゃるとおり顔。ここに町の保健室や夜までやっているようなもの。それから、運動場も全部木を切るかは別にして、ある程度見晴らしが良いような植栽など、そういうものを考えるといい。それから大学生や高校生は、この場所が夜にまだやっていけば帰りに寄って来ますから。こういうことに効果は非常にあるのではないのかなというところで、だから最初は5番からいったのかな。5番から地域、学童。3、4、5と行って、本職の倉澤さんにバトンタッチします。

○倉澤委員：はい。こちらでは職員室はこの1階の位置で、2階に地域エリアがあります。1階が職員室ということで、職員室が教室から離れているけど、教員コーナーがそれぞれ教室の近くにあって、こういう教員の基地がそれぞれあると良いよねと。ただ、ここの部屋はドアが無い方がいいかな。コーナーのような形で、オープンにしていた方が不祥事防止など、見えやすいかなといったところで、コミュニケーションが取れるような所を配置しているのが良いかなということでした。それから保健室については、やはり教室から近すぎても遠すぎてもといったところで、ここに置いたのは体育館での怪我。それから運動場での怪我。この2か所に対応ができる所、ここの辺りが怪我や病気の対応ができるかなと。この下の保健室については心のケア、相談室。そういったところも中心に置くこともできるのではないかということで、こちらは相談室をメインにしました。それから、昇降口については両方出入りができる。この外の「せとみち」からも、グラウンドからも、両方がとても良いのではないかなということでした。それと、この低学年の教室の昇降口については昇降口というより、ここを土間にしてしまって、非常時でも出入りができる非常口的な使い方。2階についても非常階段をやって、出入りができる形を取れば機能的ではないかなということが出ました。以上です。

○大塚委員長：はい。ありがとうございました。全ての項目を網羅していただきました。では最終グループ。お願いします。

○東畑建築事務所（岡本）：私たちの班では、まずこれからの学校の未来というのは学校教育だけではなくて、公共施設として、皆が使う。赤ちゃんからお年寄りまでが親しみを持って、この学校を眺めたり使ったりしたら良いなというのが根底にあると思って、その顔というのは、そういう意味で皆さんがおっしゃるように、ここに人氣があったり何かやっている。朝から晩までやっているというのが、見えるのがいいのではないかとということで1階の一番前に地域エリアを考えました。その地域エリアに付いていることが必要だということで学童と地域の皆さん、自治会の方、防災関係の方、全ての方が出入りする所があって、そして、私たちの考えでは2階に多目的ホールと家庭科室。つまり、その多目的ホールと家庭科室と地域エリアは、いざとなった時にシャッターがしっかり下りて、学校と分離できるようにしておくことで、安心して避難所運営ができるだろう。もちろん体育館との連携はするのですが、今回の体育館は冷房が付くということで、そこで十分居住性が高まるだろうから、多目的ホールは日常的にはフラダンスをしたり合唱をしたり、地域の方が文化的な活動ができるようなホールとして2階にある。それはもっと活用されるのでは。学校がやっている間は多目的ホールは使いますが、学校が終わった段階から使えるようにする。土、日曜日は使えるようにするというふうに考えました。それから、職員室です。職員室は最初にあった案は駅に近い方でしたが、もう少し子どもに近い所で声が聞ける、すぐに対応ができる所にあった方がいいのではないかとということと、それから、どこかのグループで申し上げましたけど、「教員コーナー＋教材庫」は多分教材庫のみになるのではないかと。実は私もいくつかの学校で、そういう所を見してきました。「ここはもう物置にはなっていますが、僕たちの部屋にはなっていません。」という学校をいくつか見てきたので、ぜひそれは考え直して、教材庫は必要。バックヤードは必要だと思います。それで先生方は職員室に帰ると、学年ごとに座るので見える。言うことも言えないとよくおっしゃるのですね。だけど、昔はどこかにタバコ部屋がありました。何でも話せるし、雑談ができる。それがリフレッシュコーナーで、お茶を飲みながらお菓子を食べながら、それぞれが悩みを語る。プライベートなことでもホッとすることができるところを職員室には必ず付けた方がいいのではないかと。リフレッシュすることは学年内に戻った時にはできないお話ができるということで情報提供となる。情報交換もできると思うので、ぜひおっしゃってほしいと思います。私はアメリカにいたのですが、先生方は職員室が無いのですね。アメリカの学校はコーヒールームしかないのです。そこでお話をして元気になって、また教室に戻るというのを見てきたので、それをイメージしています。それから図書館です。図書コーナーはとても大事で、このコアな場所に置いている方がいらっしゃるのですが、そこが単なる通路にならない工夫は必要だと思うので、ぜひ「せとみち」のような、くねくねした図書の配架があってもいいと思いますが、そこは通路ではなくて図書館としてキーステーションがあって、それが職員室の傍にあると嬉しいなと思っています。それから、保健室が1階なのは皆さんと同じ意見です。それから、昇降口。私たちは最初に話したのですが、最後に話します。昇降口は子どもたちが使える。すぐに出たり入ったり。数分しかない休み時間に急いで出て行くのに、こちらから出ていたら大変ですね。もう走っていくので、「せとみち」がもうガサガサします。だから、ここから出入りする。1階も2階も昇降口は、子どもたちはグラウ

ンド側から。それから、教職員と来客用の入口が必要だと。もう1つ必要なのが、1階にある地域の玄関が必要だと。いざとなった時、地域の玄関だけ開いています。皆で使えますというふうにすることで、出入口を分けたらどうかという意見が出ました。以上です。

○大塚委員長：はい。ありがとうございました。皆様の協力をもちまして4時前です。あと1つテーマがありますが、頑張りましょう。今のワークショップに関して何か質問や確認事項などはありませんか。大丈夫ですか。多様な意見が出てきたなと思いますが、これらをまた生かして基本設計にできるだけ反映させていただくようにしていただければと思います。それでは協議事項d 幼稚園について、もう1回皆で再確認の議論をしたいと思います。事務局からご説明をお願いしますか。

○事務局（上甲学校建設担当課長）：はい。それでは本日資料はありませんが、幼稚園に関しましては、これまで様々なご意見をいただきました。まず、結論を申し上げたいと思います。総合的な判断として、幼稚園については、これまでの学校建設準備委員会としての意見と同様、「含めない」ことを提案させていただきたいと思います。理由を述べます。まず1つ目は、町として幼稚園は認定こども園へ移行することを町長が公言されました。認定こども園の施設整備要件は、単独幼稚園よりもさらに面積が必要となります。また、次年度より制度が開始となる『誰でも通園制度』において、ひなづる幼稚園も実施に向けて検討に入っているところです。この制度につきましては、前回の準備委員会においてト部健康こども課長から報告がございましたが、就労の有無に関わらず、概ね6か月から2歳児までのお子さんが通える制度です。そのため、施設整備要件についても単独幼稚園よりも大きくなります。2つ目は、町長の与件でもございます図書館の施設整備。また、教育移住による普通教室の更なる確保。これは常設するのではなく、可変性を持たせて当初は会議室等で使用し、万が一クラスが増えた場合、普通教室に転換できる空間もしくは部屋を配置してほしいということでございます。以上の2点から、設計チームとの協議も重ねた上で、事務局としては3階建てにした時の建築基準法上の施設整備費の加算などに伴う費用の増加等を考えると、まずは2階建てを基本とした設計で進めたい。ただし、本日皆さんに協議していただきましたが、当然これからゾーニングを行う上で「何を優先すべきか」で、一部3階建ての議論も必要となるかもしれません。ただ、総合的に考え、現有面積で幼稚園の併設は困難であると判断したものでございます。幼（保）小中一貫教育をめざしています教育委員会といたしましても、苦渋の判断ではございますが、認定こども園の移行の議論も含めて、別の協議体で早々に議論していくことが良いと判断したものです。どうかご理解をいただければと思います。説明は以上となります。

○大塚委員長：はい。ありがとうございました。それでは事務局から「こういうふうな方向でどうだろうか。」という提案がありました。これはグループごとではなく、平場の中でそれぞれのご意見があれば、発表していただければなと思います。その前にト部さん、何か補足説明はありますか。

○事務局（ト部健康こども課長）：特に無いです。

○大塚委員長：大丈夫ですか。いかがでしょうか。幼稚園については、今回、併設は見送ろうではないかということで、もう一度教育委員会にその考えをお伝えしようと。教育委員会がそれを受けて正式決定する運びにしたいということですが、ご意見等ございますか。遠慮なくどうぞ。その方向で大丈夫ですか。何かありますか。

○玉田委員：まとまってないので、あまりきちんと言葉にできないのですけど。

○大塚委員長：はい。まだまとまってない意見ですが、皆で聞きましょう。玉田さんお願いします。

○玉田委員：雑談しながら聞いていただければと思うのですが、すみません。私は幼稚園の建て直しも、これからどうしても必要になってくるのかなと思いますが、今回のこの学校建設準備委員会では、学校にかかる予算の話など、そういった全体的なお話をこの場ではあまりしてこなかった中で、学校にものすごくたくさんお金がかかる。そのあとで、認定こども園を作るだけの予算を本当に町として取っていただけるのかなど、少しそこら辺が気になっています。あと、その認定こども園をどこに作るのかという問題も、これから出てきてしまうと思うのです。なので、何かその辺りがまとまっていないのですが、一緒に考えなかったのはすごくもったいなかったなと今は感じています。

○大塚委員長：はい。ありがとうございます。ご心配をいただいている点が「認定こども園を作る方向で町が進んでいくよ。」とは言うものの、本当にその予算をしっかりと確保してもらえるのだろうか。あるいは、どこに作るという場所の目処が立っているのだろうか。そのようなことも心配なので、可能であれば一緒に議論できたら良かったなという感想ですね。最後は。ただ、そのところを留意して町としても取り組んでくださいということです。それ以外ではいかがですか。

○瀧本委員：今、上甲担当課長の方でサラッと言われていたのですが、町長の与件として、学年が複数になることも想定して会議室をという話があったのですが、少し今想像していて。それは何か 30 年までの間に手立てを取っておいて可能性としてあるなというのは分かりますが、今イメージがなくて、何と言っていいか分からないのですけど。何も手立てを取らない場合は多分 30 年度は、その会議室は全部空き教室になってしまうと思うのです。それを「ここで認めます。」と言ってしまっているのかなという気がして少し意見を出させていただきました。

○大塚委員長：はい。ありがとうございます。これからの町の政策とも関わりますね。教育移住によって、もしかしてクラスが増えるかもしれないことを候補の 1 つとして入れてほしいということだと思うのですね。ただ、逆の見方もあって、子どもの数がどんどん減っていく中で無駄なスペースができてしまうのではないかという心配事もありますよということです。ご意見の 1 つとして受け止めてよろしいですか。ありがとうございます。それ以外いかがですか。はい。露さんお願いします。

○露委員：質問をいたします。まず、事務局の方に質問をしたいのですが、学校建設準備委員会の中で、幼稚園について具体的に何かワークショップをしたという記憶、僕の記憶レベルなのですが、あまり無いのです。2回前か3回前の時に、正直急にふってまた幼稚園の話が出てきたという印象を持っています。そもそも幼稚園をこの学校に含めようという意思や考えがあったのかを、まずお伺いをしたいのですが、いかがでしょうか。

○事務局（上甲学校建設担当課長）：これは学校のあり方検討会が開催された時に、幼小中ともに校舎、園舎の耐用年数が来てしまう。その場合、幼小中一貫型の施設作りをすることが、この町の少子化などを考えた時に必要ではないのかということでの、まず一義的な結論はそこで出されています。

○露委員：ありがとうございます。今回、なぜ幼稚園の話を2回前か3回前か。少しあやふやな記憶で恐縮なのですが、ここでもう1回出して、こういう報告をしていただいているのかの意味とか。そこはどういう思いから、こういう話になっているのか教えてください。

○事務局（上甲学校建設担当課長）：はい。まず基本構想を作った時には、建築条件があった上で基本構想を策定しています。それは高さ制限が10m。要するに、2階建て。ただし、協議によっては3階建ての可能性もありますよということでしたが、基本構想・基本計画で高さ制限10m、2階建ての計画の中で考えた時に、やはり面積要件から「非常に厳しいですね。」ということで、一旦、学校建設準備委員会としての意見を取りまとめていただきました。ただ、設計者が決まって、いろいろな配置計画だったり校舎の配置やゾーニングだったり、そういうものを詰めていく中で、もしかしたら幼稚園を入れ込むことの可能性は、まだその当時排除できなかったもので、改めて今回設計者が決まり、幼稚園のことも検討に入れた中で設計者の意見を聞きながら、最終的に決定の意向を再確認させていただいたところです。ですから、決定権者である教育委員会としては、まだ決定事項としてはしておりませんでした。以上です。

○露委員：ありがとうございます。認定こども園のことについても、少し今日の議題とはずれるかもしれませんが、お伺いしたいです。今回、認定こども園を作っていこうと思っているという趣旨の発言があったかと思いますが、実際にどのくらいの年度に認定こども園を作ろう、認定こども園に向けた協議体を、こういう人たちと協議体を作っていこうという計画は現段階であるのでしょうか。

○事務局（ト部健康こども課長）：はい。健康こども課長のト部です。今のご質問については、今日の議事録にもありますとおり、前回会議でも今後の展開についてご説明をしたところです。まず、これからどうやっていくかについては『幼保のあり方に関するグランドデザイン』を作ることと、来年度から誰でも通園制度が始まりますので、その状況を活用して現場レベルで幼保の交流を始め、子どもたちも両方体験ができる環境を作る中で、認定こども園は保育園がやっていくのか。幼稚園がやっていくのかを、民業官業の関係も調整しながら結論付けていきたいと思っております。

グラウンドデザインを作る上で現場レベルの交流を始めることを、まず来年度尽力して、来年1年間
はかかるのではないかなと思っています。そこでの状況変化を捉えて、次に認定こども園について
の議論をさらに詰めていく流れになっていくのかなと思っています。

○大塚委員長：大丈夫ですか。よろしいですか。この検討母体はどこになるのですか。

○事務局（ト部健康こども課長）：検討母体も、これは2本柱というところで、まず1本目は子どもに
関係する関係者が集い、さらに幼稚園と保育園も入っている「子ども子育て支援会議」。そちらが1
番目の柱になって、2番目としては、園長先生と教育委員会、健康こども課が入っている「園長会
議」でも補完しながら、検討を進めていく形になります。第1協議体は子ども子育て支援会議にな
ります。

○大塚委員長：はい。どうもありがとうございました。その他いかがですか。はい。どうぞ。

○倉澤委員：はい。幼稚園ですが、今回のこの幼稚園の併設については、やはり町の方、それから議
会の方、そういった所を含めて幼稚園。それから、幼稚園の今後といったところで認定こども園が
出ているのかなと思います。そういったことで幼稚園としても、いろいろご心配をいただいて本当
にありがたいなと思っていますところです。ただ、幼稚園の運営・経営については、今後のことを考
えて関わっていかなければいけないところもあります。そういったところを町の幼稚園というこ
とで、教育委員会と健康こども課と連携しながら柔軟に幼稚園の経営について進めていく中で、協議
体で検討していただく形になるかと思います。今回の幼稚園の併設は、やはり少し無理があるかな
と。これまでの資料を見ていただいても、やはり幼稚園にとって望ましいかといったところについ
ては「…課題が多いな。」と思いました。この準備委員会の中でも町に要望しました小学校跡地の活
用、そういった所も含めて、乳幼児が安心安全な居場所といったところで幼児施設であったり認定
こども園であったり、高齢者と乳幼児の交流場所をより検討して実現していただく方が良いのでは
ないかなと思います。どうぞよろしくお願いします。

○大塚委員長：ありがとうございました。他はいかがですか。ご意見等はございますか。それでは事
務局から説明がございましたが、学校建設準備委員会としては、今回は幼稚園の併設は検討の枠外
とすると。今後の認定こども園等の関係、それから、小学校跡地を中心とした場所の関係も含め
て、この枠外で検討を進めていくことで、教育委員会の方に最終的意思決定を委ねたいと思いま
すが、それでよろしゅうございますか。大丈夫ですね。では、そのようにさせていただきます。皆様
ご議論をいただきまして、どうもありがとうございます。それでは、次に時間が少しありますので
資料4の説明ですね。事務局から説明をお願いいたします

○事務局（上甲学校建設担当課長）：はい。ありがとうございます。それでは資料4をお願いいたしま
す。内容の詳細については、後ほどお帰りになられてからお読みいただければと思います。教育を
語り合う会につきましては、すでに2回開催をいたしました。記載のとおり、多くの方にご参加を

いただきました。10月26日に開催予定の第3回でも、学校と地域について考えるワークショップを行いますので、準備委員会の皆様にもぜひご参加いただければと思います。また、資料4-2、資料4-3に第1回、第2回の参加者の感想をまとめたものを添付させていただきました。続きまして、教職員のワークショップです。ゾーニングについて、先生方からご意見をいただきました。資料4-3、資料4-4にその際の感想を添付させていただきましたので、後ほどご覧いただければと思います。報告は以上となります。

○大塚委員長：はい。ありがとうございます。数多くの場を設定して、いろいろな方々もいろいろな立場からの議論を重ねてきております。一つ一つの情報が細かくて大変恐縮ですが、皆さんも可能でしたら、ぜひ一通りお目通しをお願いできればと思います。よろしくお願いします。それでは、これで本日予定しております事項は全て検討終了しましたが、全体をとおしまして委員の皆様から何かございますか。はい。どうぞ。

○伊藤委員：すみません。質問などではないのです。私が少し気になっていたのが、この図面など、いろいろな場所に『学校図書館』とだけ書いてあるのですが、町長は「図書館は町民のための図書館も、今度新しい学校に作りますよ。」と確か言ってらっしゃったと思うのですね。だから、その学校図書館というふうにだけ書かれていると、子どもたちだけのものかなと。地域の人たちの図書館をどこに、スペースとして足りるのかなと少し考えました。それともう1つ。ごめんなさい。「せとみち」は真鶴らしい特徴ですごく良い言葉ですし、交流の場面もできるなと思っているのですが、「外のせとみち」、「中のせとみち」と書かれていて、ある町民の方から「外のせとみち」は分かるよ。今、通っている道。向こうへ行けるのだよね。「中のせとみち」は、俺たちが通っているの。」と言われたのです。だから、「いや。そうではなくて、学校の中のそういう『いえとせとみち』という感じでやっているのだけ。」と言ったのですけど。だから、今度機会があった時に町民の方たちに「中のせとみち」という言葉はもちろんすごく素敵なんだけど、別に皆も通っている所ではないというのを、やはりきちんと何か話をしておかないといけないのかなと思っています。以上です。

○大塚委員長：はい。どうもありがとうございます。1点目のご指摘は資料中の表示で、「地域図書館」という表示をしっかりとするようにしてください。」ということですので、ぜひよろしくお願いします。それから2点目は、「中のせとみち」についての説明を住民の方々にできるような機会を持てればということでございます。その問題意識ですね。他にはありますか。

○東畑建築事務所（内海）：はい。すみません。今いただいたご意見、ありがとうございます。まさにおっしゃるとおりだと思いますので、次の第3回のワークショップが、セキュリティなど、学校と地域の関係を考えることなので、そこで明確に考えられるようにしておきます。

○大塚委員長：はい。内海さんありがとうございます。他はいかがですか。よろしいですか。では、他が無いようですので、事務局にお返しします。よろしくお願いします。

○事務局（上甲学校建設担当課長）：委員長、ありがとうございました。委員の皆様、本日は長時間にわたりありがとうございました。次回の日程については記載のとおりで、町民センター３階の講堂に会場が戻りますので、よろしくお願いいたします。また、部会の開催を明日行います。部会員の皆様につきましては連日となってしまいますが、引っ越しと共同生活が始まるまでのいろいろな課題を、これから詰めていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、本日は閉会といたします。ありがとうございました。

以下、余白